

PCR事業参加「報酬次第」

茅ヶ崎寒川 薬剤師会 薬学生の約3割が意向

PCR等検査無料化事業に対する今後の参加希望を聞いたところ、現役薬剤師では約4割、実務実習に参加した薬学生では約3割が「参加したくない」「報酬次第で参加を考える」と回答していたことが、神奈川県茅ヶ崎寒川薬剤師会が実施した調査で分かった。同薬剤師会は、報酬次第で参加を考える回答した学生が多いことについて、「考えさせられる結果だ。現役薬剤師だけではなく、学生の段階から倫理教育や地域貢献の重要性を教育する必要性を感じた」としている。

調査では、ワクチンの 希釈・分注作業、PCR 等検査無料化事業、抗原検査キット販売、陽性患者者への宅配に対し、参加の有無や参加理由、事業への考えなどを聞いた。同薬剤師会の会員薬局、会員薬局に勤務する会員以外の薬剤師に調査したほか、2022年4

月に同薬剤師会や藤沢市、鎌倉市で実務実習を受けた薬学部5年生にも回答を求めた。

その結果、PCR等検査無料化事業を「行っていない」との回答は25%にとどまった。行っていない薬剤師の意識を見てみると、「行いたかった」「やらなくて済んで良かった」の回答が共に半数だった。

今後、事業に参加したいかを聞いたところ、現役薬剤師は「積極的に参加したい」11%、「できれば参加したい」49%と6割が前向きだった一方、「参加したくない」21%、「報酬次第」19%との回答だった。

一方、薬学生は「積極的に参加したい」との回答が33%、「できれば参加したい」は37%に上り、「参加したくない」と回答したのは、わずか1人で4%と少なかった。しかし、「報酬次第で参加を考える」は26%と、現役薬剤師よりも多い割合となった。

ワクチン希釈・分注については「参加した」が25%、「参加しなかった」が参加できなかったが27%となったのに対し、「参加する意思はなく参加しなかった」が48%とおよそ半数に上った。参加したくても参加できなかった理由として「時間的に難しい」が5割を占めた。

今後の参加意向については「ぜひ参加したい」は19%、「できるだけ参加したい」が53%に上ったものの、「参加したくない」との回答が28%と、約3分の1の薬剤師が参加を拒んでいた。

薬学生に対しても、ワクチン希釈・分注の参加意向を聞いた。その結果、「参加したい」が90%と圧倒的に多く、理由については「注射薬手技修得のため」32%、「知識を得るため」24%、「地域貢献のため」21%の順となった。

同薬剤師会を含めた湘南東地域のコロナ対応でも、436薬局のうち検査キット販売の実施薬局は120薬局(28%)にとどまり、PCR等無料検査事業は67薬局(15%)と少ない。

神奈川県が独自に認定している「へすの」と健康

相談薬局」でも検査キット販売は49%、PCR等無料検査事業は17%と低い実施率であるのが実態という。

同薬剤師会は、PCR等無料化検査事業の参加を「報酬次第で考える」と答えた学生が3割弱に上った結果に対し、「これで地域医療が守られるのだろうか。報酬次第で参加を考えるこの回答が少なからずあったことは残念」とした上で、「倫理教育や社会薬学教育が必要。地域薬剤師会の中でも、薬剤師のあるべき姿を考える必要がある」と提言している。